



インターネットの利便性と危険性

校長 菅原 尚志

短い2月は今日まで。明日からは今年度最後の月、3月です。生徒の皆さんにとって、今の学年、学級での生活も約3週間となります。特に3年生にとっては、中学校生活最後の月になります。中学校の締めくくりとして、また4月からの新しい生活に向け、大切に過ごしてほしいと思います。

七中校舎の裏には武蔵台緑地があります。現在、市の委託を受けた第一造園さん（先日、1年生の職業講話にも来ていただきました。）が雑木林の間伐等して下さっており、緑地一帯が風通しのよい、すっきりとした状態になっています。また、多くの木々が落葉しているため、シジュウカラやヤマガラなどの野鳥の姿をよく見ることができます。先日は、コンコンコンと木を打つ音がしたので、その方を見てみるとコゲラがいました。教員や生徒の話では、このコゲラは七中の桜の木も突いているそうです。

さて、前回の学校だよりでは、インターネットの利用時間と学力調査の結果について話題にしましたが、最近、連日のように報道されているニュースの一つに外国における特殊詐欺に関連した事件があります。この特殊詐欺の拠点には、日本人を含めた外国人が監禁され、詐欺行為に加担させられていたそうです。また、報道では保護された日本人には十代の少年たちがおり、この少年たちはオンラインゲームやSNSを通じて渡航を誘われ、犯罪に加担することになったそうです。多くのオンラインゲームには、ボイスチャットやメッセージ交換機能が付いており、友人だけでなく匿名の相手とも簡単にゲームを楽しみ、やりとりできる状況があります。SNSに関しては、多くの人が危険性もあると認識していると思いますが、オンラインゲームにもSNSと同様の機能が備わっていて、危険性があるということを考えさせる事件だと思えます。

インターネットについては、その利便性だけでなく、危険性もあることは当たり前と言われるようになったと感じています。当初は一部の人、場面でしか利用していなかったインターネットが、PHS・携帯電話により身近になり、スマートファン等のモバイル端末の登場によって一気に普及しました。電車内、街中を見てもスマートフォンを手にしている学生・社会人がほとんどです。そういう私も重宝していて、上記のコゲラを見つけた時もスマートフォンで撮影を試みたり（カメラを向けたら逃げられました。）、コゲラの生態をその場で調べたりしています。SNS等のコミュニケーション、オンラインショッピング、動画や音楽の視聴など、私は全くですが、得意な人はスマートフォン等でできる様々な機能を上手に活用しているのだと思います。

インターネットの普及は、私たちに様々な利便性をもたらし、生活を豊かにしてくれています。一方で先の報道のようにインターネットから犯罪に巻き込まれるなどの被害・トラブルも多く発生しています。国の調査によれば、学業・生活に支障が出たり人間関係の問題にあたりするなど、中学生の約5割がインターネットでのトラブルにあっています（右図参照）。また被害にあうだけでなく、SNSで投稿した内容が問題になるなど中学生が加害者になるケースもあります。

中学生にとって、オンライン・コミュニケーションはトラブルのもとになる一方、友人との信頼や関係を維持するライフラインとも言われます。個人情報や掲載する危険性、危険なサイトにアクセスしないことなど越えてはいけないラインを示しながら、子供たちが自律してインターネットを使えるよう関わっていくことが大切だと考えます。



総務省「我が国における青少年のインターネット利用に係る調査結果」（令和6年6月）より作成
※掲載に当たり、2%未満の項目は省略しています。

東京 2025 デフリンピック開催を契機としたアスリートとの交流

2月6日(木)に府中市の実施する「東京2025デフリンピックに向けた学校訪問事業」がありました。本事業は、聴覚障害者やろう者の理解を深め、スポーツのすばらしさ、共生社会の大切さを学ぶことを目的としています。当日は、ナショナルチームの伊藤 勇哉 選手、沼倉 昌明 選手、矢ヶ部 紋可 選手と、府中市聴覚障害者協会の方がいらっしゃいました。



身振りで伝えるゲームは選手も一緒に

手話についての講義とゲームを交えた手話体験、選手によるデフバドミントンのデモンストレーション、代表生徒とのデフバドミントン体験を行いました。生徒たちは講義・体験を通じて、手話が分からなくても壁を作らずにコミュニケーションをとることの大切さや、障害の有無にかかわらず、スポーツ等を通じて交流できることなど多くのことを学びました。

デフリンピックは、今年の11月15日より東京で開幕します。市立総合体育館はレスリングの大会会場になっており、調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザはバドミントンの大会会場になっています。今年度は縁があって昨年11月に本校バドミントン部がデフバドミントンのナショナルチームの選手と交流しています。大会本番が楽しみになった生徒も多いと思います。



代表生徒による体験。盛り上がりました。

走って、つないだ府中駅伝！陸上競技部が優勝しました！



2月11日(火)建国記念の日に市制施行70周年記念第78回府中駅伝競走大会がありました。府中市が70周年に対して本大会は78回目で、府中市ができる以前、府中町、多磨村、西府村だった昭和22年から始まった歴史ある駅伝大会です。

今回の大会には、陸上競技部1チームとバドミントン部3チームが参加しました。フォーリス前で行われた開会式では、前回大会の中学女子の部で優勝したバスケットボール部の松井 雫空さん(3年3組)と松井 絆奈さん(2年2組)が優勝旗を返還し、レプリカを受け取りました。



レプリカを受け取る様子



第1区スタート地点。晴れ渡る空

襷(たすき)を大國魂神社で受け取り、スタートを待ちました。スタートはフォーリス前のけやき並木。中学生の部は男女同時にスタートしました。↗



男子3名のスタート瞬間(中央)

第1区。陸上部競技の佐藤 壮真さん、バドミントン部の牛島 春道さん、大庭 澄碧さんの3名は先頭付近からスタート。↙

府中駅伝は全5区からなり、中学男子は1区間2.9km(1区は3.1km)、中学女子は1区間2.1km(1区は2.3km)で、けやき並木をスタートして市街地を走り、市民陸上競技場が第2区から5区の中継地点・フィニッシュ地点でした。

当日は快晴で、時折強い北風が吹くなかのレースになりました。陸上競技部は1、2区を2位で粘り、3区でほぼ同着、4区で逆転し、5区は迫る2位に30秒差をつけて1位でゴールする白熱したレースになりました。バドミントン部の皆さんも最後まで走り切りました。



当日は、生徒、保護者、先生のたくさんの応援がありました。



第78回府中駅伝競走大会 中学男子の部 優勝

記録 0時間51分14秒(フィニッシュタイム)

第1区 佐藤 壮真さん(2年1組) 10分29秒

第2区 奥山 大翼さん(2年3組) 10分34秒(区間賞)

第3区 井上 祐之真さん(1年3組) 09分45秒(区間賞)

第4区 入澤 慧さん(2年2組) 10分23秒

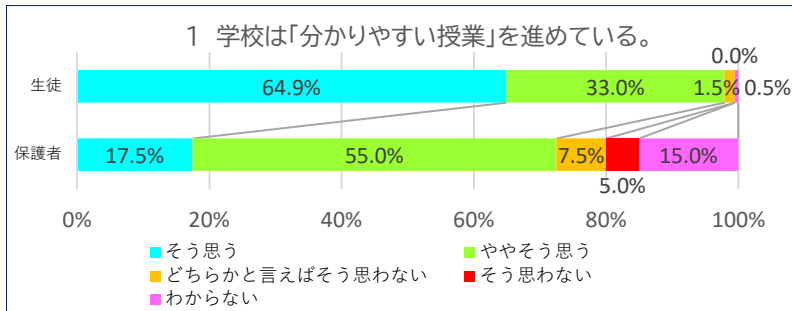
第5区 田中 漣さん(2年3組) 10分03秒

学校評価アンケートの結果

昨年12月に生徒、保護者を対象に実施した学校評価アンケートについて、御協力いただき、ありがとうございました。生徒用・保護者用の学校評価アンケートには、同一の項目があり、集計したのち比較等により分析し、次のとおりアンケート結果をまとめました。

※四捨五入しているため、割合の合計が100.0%にならない場合があります。

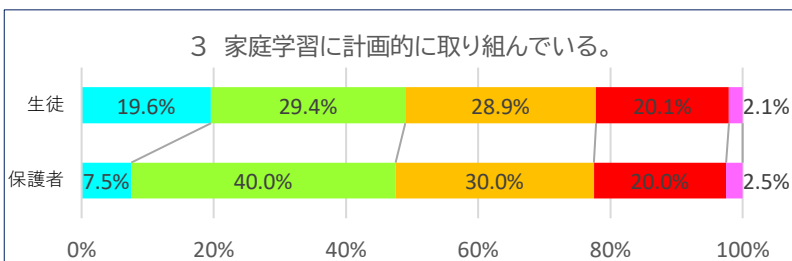
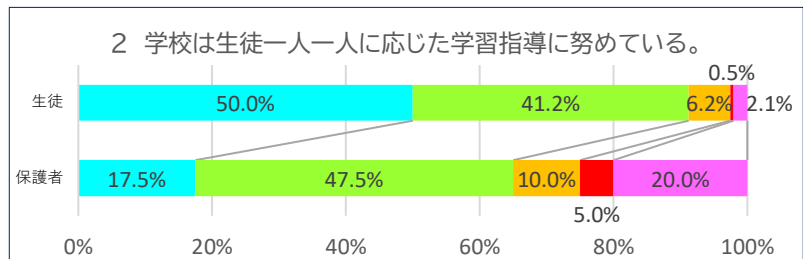
1 生徒と保護者のアンケート結果の比較



「分かりやすい授業」について、生徒の肯定的な回答の割合は97.9%で、保護者の肯定的な回答の割合は72.5%であった。

この結果からおおむね達成できていると考えられるが、25.4ポイントの差があることから、引き続き、生徒にとって分かりやすい授業を進めるとともに、生徒・保護者が授業の成果を実感できるようにする必要がある。また、保護者で「わからない」と回答した割合が15.0%あることから、授業での取組等を保護者に対し、積極的に発信することも必要である。

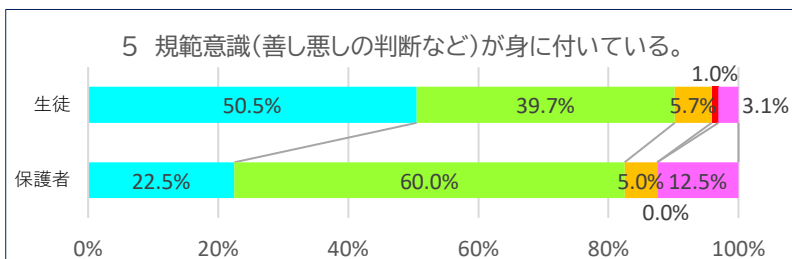
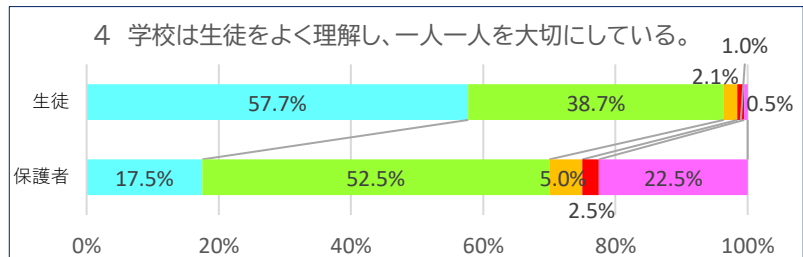
「生徒一人一人に応じた学習指導」について、生徒の肯定的な回答の割合は91.2%で、保護者の肯定的な回答の割合は65.0%であった。
本項目について、生徒と保護者で26.2ポイントの差があり、保護者の「わからない」と回答した割合は20.0%という結果となった。学校における個別に課題を設定した探究活動や少人数指導などの様々な取組を発信する必要がある。



「家庭学習の計画的な取組」について、生徒の肯定的な回答の割合は49.0%で、保護者の肯定的な回答の割合は47.5%で、生徒・保護者間に大きな差はなかった。

本項目に関連する「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強時間」では、「全くしない」と回答した生徒の割合は、3年生4.6%、2年生29.9%、1年生22.6%となっており、学校と家庭とが連携して学習を習慣づける取組が必要である。

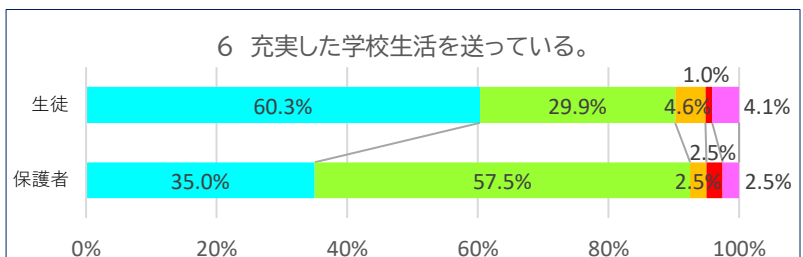
「生徒理解に基づいた指導」について、生徒の肯定的な回答の割合は96.4%で、保護者の肯定的な回答の割合は70.0%であった。
この結果からおおむね達成できていると考えられるが、26.4ポイントの差があることから、引き続き、生徒理解に基づき指導を行うとともに、学習指導だけでなく、生活指導に関する取組についても保護者に対し、周知していくことが必要である。



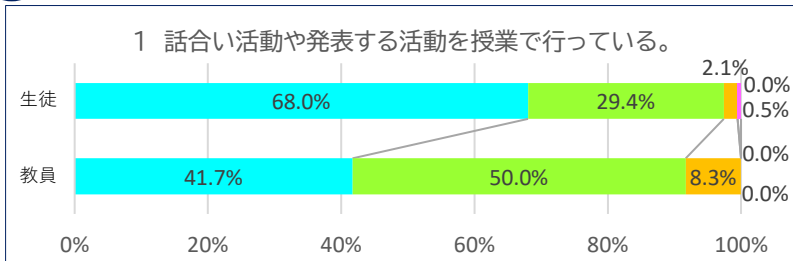
「生徒の規範意識」について、生徒の肯定的な回答の割合は90.2%で、保護者の肯定的な回答の割合は82.5%であった。

生徒・保護者共に高い結果となっており、府中七中の生徒の良い点の一つである。学校においても、引き続き、道徳の授業や特別活動などにおいて、他者との関わりや、集団で生活する上で大切なことなどを学ぶ機会を設定していくことが大切である。

「充実した学校生活」について、生徒の肯定的な回答の割合は90.2%で、保護者の肯定的な回答の割合は92.5%であった。
生徒・保護者共に高い結果であったが、生徒の9.7%が否定的な回答又は分からないと回答している。生徒一人一人が中学校生活において所属感や連帯感、授業に対する満足感などがもてるよう、引き続き、授業や学校行事、生徒会活動などの充実を図る必要がある。

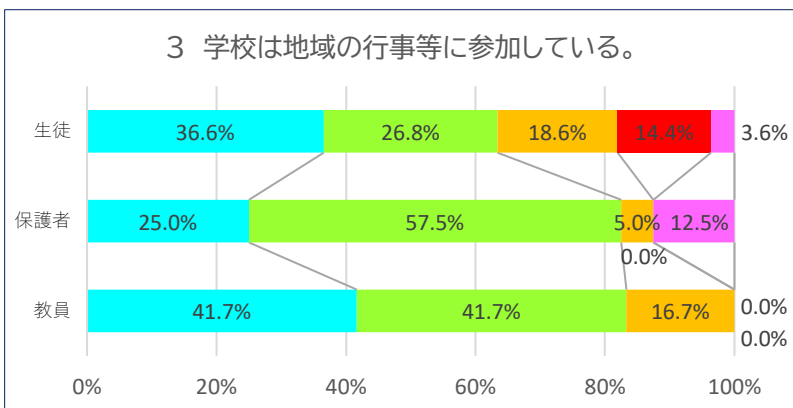
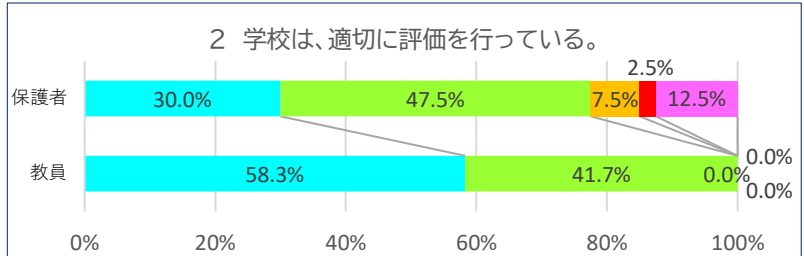


② 生徒・保護者のアンケート結果と教員の意識調査の比較



「話し合い活動や発表する活動の取組」について、生徒の肯定的な回答の割合は97.4%で、教員の肯定的な回答の割合は91.7%であった。
授業においては、全ての教科において他者との対話を通じて考えを深めることや、学習した知識技能を活用して、思考・判断・表現させる取組が求められている。知識・技能の定着とともに、引き続き授業のねらいに迫る「対話的な学び」に取り組んでいく。

「適切な評価」について、保護者の肯定的な回答の割合は77.5%で、教員の肯定的な回答の割合は100.0%であった。一方、保護者の10.0%が否定的な回答であり、12.5%が分からないと回答している。
評価に関し大切なことは、生徒・保護者に対し、評価計画を説明することや、授業において学習のねらいとともに評価のポイントを、しっかりと伝えることである。取組を見直し、改善を図る必要がある。



「学校と地域との連携」について、生徒の肯定的な回答の割合は63.4%で、保護者の肯定的な回答の割合は82.5%であった。また、教員の肯定的な回答の割合は83.4%であった。
保護者と教員の肯定的な回答の割合に差はほぼないが、保護者・教員と比べて生徒の割合が低い状況がある。要因として、参加の主体である生徒の場合、個人での参加や、生徒会活動、部活動での参加などがあり、生徒によって取組の状況が異なることが考えられる。教員も生徒と共に参加することや、夏祭りや地域パトロールなどにも多く参加している。
七中校区は、地域の行事(ボランティア活動を含む)が盛んであり、本校を会場とした取組や文化センター等の取組も年間を通じてあることから、引き続き、学校として協力し、生徒が活躍する機会を作っていく。

今年度、御協力いただきました学校評価アンケートの結果については、学校として真摯に受け止め、次年度以降の教育活動が、七中に通う子供たちにとって、より良いものになるよう、教育課程や授業改善などの参考にしていきたいと思います。

また、今回、保護者の方の学校評価アンケートで気が付いたのは、質問項目について「分からない」と回答している割合が多いということです。この結果についても、しっかりと受け止め、学校公開や保護者会等の機会を有効に活用するとともに、学校・学年だより等を通じて、これまで以上に学校の取組や生徒の活動の様子など発信していきます。

3月の予定

月	日	曜	行事予定	月	日	曜	行事予定
3	1	土		3	17	月	生徒会朝礼
	2	日			18	火	給食終
	3	月	都立発表・手続き(一次・前期)		19	水	第57回卒業式
	4	火	都立手続き(一次・前期)		20	木	春分の日
	5	水	薬物乱用防止教室(3年)		21	金	
	6	木			22	土	
	7	金	保護者会(1、2年生)		23	日	
	8	土	ふれあいスポーツ		24	月	大掃除
	9	日			25	火	修了式
	10	月	全校朝礼		26	水	春季休業始
	11	火			27	木	
	12	水			28	金	
	13	木	卒業式予行		29	土	
	14	金			30	日	
	15	土			31	月	
	16	日					